

# 下蒲刈で人とつなぐヤギ飼養

— Goat breeding to connect people in Shimokamagari-town —

広島ミニヤギ牧場 代表  
1級愛玩動物飼養管理士 菅原 常司

## 1 はじめに

ヤギを活用した「ふるさと再生ヤギプロジェクト」に取り組んで早や2年が経過しました。本提案は、実施してきたプロジェクトの目的とこれまでの取り組みの中から具体的な事例をいくつか紹介させていただきながらヤギの持つ多様性やヤギの役割を見直し、新たなヤギ飼養の方向性をいっしょに考える機会となることを願っています。

### (1) 今、畜産・農業は…

日本の畜産業は、1961年の農業基本法によって、農業の生産構造が大きく変わり、「経済家畜/産業家畜」として『牛、豚、ニワトリ』の飼育が主流となってきました。そして今、畜産の大量生産システムは、感染症の脅威と動物の大量処分という「食の安全性や動物福祉」の問題に直面しています。また、日本の農産食品の自給率は下がり続け、食料の大半を外国からの輸入に依存するようになってきました。一方、これまで自給用の家畜として飼われてきたヤギの飼育頭数は激減し、暮らし中でヤギを目にすることがなくなり、「希少家畜」となっています。ヤギを診る専門の獣医さんも少なく、牧場へヤギの病気や飼育方法に関する問い合わせ、相談が多く寄せられるようになってきました。さらに、「農業」が大きな転換期を迎えています。平成21（2009）年12月、農業を成長産業とし、農村地域での仕事とビジネスの機会を増やし、農村地域を魅力的な生活と居住の場にするとして、「平成の農業改革」が始まりました。この改革には、「農地利用権の緩和（農地の所有から利用へ）」があります。農業経営の大規模化と効率化を目的に、農地の所有と利用を分け、農地及び採草牧草地の権利移動や転用（農地不動産ビジネス）の規制を緩和し、農地の有効な利用を促進するのがねらいです。

さらに、「企業型農業経営の促進」です。企業が農業生産法人へ出資して農業分野に参入し、農業生産法人の経営参加や農業生産法人を設立したりすることができるようになりました。

しかしながら、現行の生産調整制度の廃止（平成30年）や企業が農業に参加することで、農業の担い手不足がさらに加速し、中山間地域の農地の荒廃（耕作者不在の放棄地や遊休地の増加）や集落営農システムの弱体化、農地の売買・転用が進む等、農業環境の悪化を引き起こすのではないかと危惧しています。

つまり、このような農業の生産基盤の維持、経営の安定化に向けた政府の対策にもかかわらず、農業就業人口は、2016年2月1日現在192万2200人と1990年と比べると4割程度まで急減し、離農が進んでいます。団塊の世代で定年退職を機に就農が増えたとみられる65歳～69歳は36万8300人と増えた以外は、特に、全体の半数近くを占める70歳以上の高齢農家の方が88万5500人と離農する人が増えています。

そして、40歳未満の若手の就農者は減り続けています。29歳以下では、4万8200人、30～34歳は3万1200人、35～39歳3万8300人と、農業の担い手不足に歯止めがかからないのが現状です。

## (2)「エコな生き方」から「ロハスな生き方」を求める人たちへ

これまでのエコライフ（環境にいい生き方）という生活意識から、シンプルライフやスローライフを志向する「**ロハス**」な生き方を求める人が増えています。それは、社会のストレスから距離を置き、自然環境の中で、自然の幸に恵まれながらゆったりとした生き方（スローライフ）を持ちたいと考える人たちのことです。

こうした「環境に配慮しながらも自分のライフスタイルを好む年配の方や若者たち（ロハスピープル）」の支持を受けて、今、ヤギの注目度は高まっています。

ロハス（LOHAS）とは、Lifestyles Of Health And Sustainability（健康や自然環境保護・環境問題のことを考えたライフスタイル＝生き方）という意味です。そして、「エコロジーな生き方」から「ロハス（LOHAS）な生き方」（健康と環境問題への関心を持つ生き方）へと少しずつ意識が変わってきています。

それは、自分が健康な生活を送ることを前提に自然環境を意識・配慮した生活を送ろうとする考えから、「オーガニック食品や自然食品、無農薬野菜、無添加食品」を選んだり、体の健康を守る上で環境に優しい商品を選んだり、健康志向や環境に優しい生活用品、サービス、シンプルライフやスローライフな暮らしを求める人たちです。

畜産・農業は、家畜、農地や農作物の知識と経験を持った人が、土との対話や自然と共生・交流しながら、ヒトの生命をつなぐ栄養源をつくる大切な営みです。これからは、ロハスな生き方を考えた畜産・農業の可能性も考えていかなければならない時代となってきたと考えます。

## 2 広島ミニヤギ牧場&菅原オレンジ農場

広島ミニヤギ牧場は、呉市下蒲刈町の大地蔵地区にあり、海を見渡せる小高い丘のみかん園の中にある、こぢんまりした牧場です。みかんとレモン栽培のかたわら農業体験や海で遊んだり、ミニヤギとふれあったりして『ほっ』とできる場所にしたいと願って、手作りで始めました。有畜複合農業として、有機農法によるみかん&レモン栽培（ヤギと育てる下蒲刈レモン・紅みかん）と小型のヤギ（メス成ヤギ5頭、オス成ヤギ2頭、去勢したオスヤギ4頭、子ヤギメス2頭、子ヤギオス2頭）計15頭を育てています。

## 3 ミニヤギを飼うきっかけ

きっかけは、私が担任した2名の不登校児童でした。少しでも学校に近づける機会はないものかと子どもでも扱えるミニヤギを飼うことにしました。最初は、3ヶ月になるシバヤギのメス1頭を取得し、毎日ヤギを車に乗せていっしょに学校へ。子ども達に飼育のお手伝いを。その結果、部屋に閉じこもりがちだった児童も元気に学校（ヤギに会いに）へ来るようになりました。

## 4 広島ミニヤギ牧場のはじまり

平成26（2014）3月、小学校教員を退職し、4月より「ヤギとのんびりみかんづくりをしようかな？」と、牧場づくりと放棄していたみかん園の整備、苗の改植を始めました。そして、ヤギの頭数も増え、ヤギを活用して何か人に役立つことはできないか考えて「1級愛玩動物飼養管理士」の資格を取得、「第一種動物取扱業（販売・貸し出し）」の許可をとって、ミニヤギの譲渡・貸し出しを始めました。

## 5 「ヤギ」の役割の変化

県内外より、橋を渡って下蒲刈島の小さな集落、大地蔵地区にある「広島ミニヤギ牧場」までヤギを求めて来られます。その理由として、次のことがあげられます。

- ① ヤギを見たことがないので、見たりさわったり、ヤギのことを教えてほしい
- ② ロハスな暮らしを求める人たちから、田舎暮らしを始めたので土地(農地)を維持し、有機農法・無農薬栽培でヤギを飼いたい (帰農者、新規就農者の方)
- ③ 定年を機に土地を購入した。地方へ移住し、農業をするのでヤギを探している
- ④ 除草が大変で草刈り機や除草剤の代わりにヤギを飼いたい
- ⑤ ヤギは人によく慣れるので、家族(伴侶動物)、ペット(愛玩動物)として飼いたい
- ⑥ ヤギは珍しいので、集客を目的にイベントでレンタルしたい
- ⑦ 子どもの心の教育のため、ヤギを飼う体験をさせたい
- ⑧ ヤギは癒し効果があるので、学校、老人ホームで交流やふれあいに利用したい
- ⑨ 発達障がいの子もや心に病気のある方へ、アニマルセラピーとしてヤギを利用(飼育・レンタル)してみたい
- ⑩ 町でヤギを飼育し、ヤギを活用した地域おこしに活用したい

このように、ヤギを農業の一部に取り入れた有畜複合農業(ヤギの糞を堆肥にして畑に混ぜて作物を育てる)や学校、公共施設、介護施設、老人ホームでの心の癒し、愛玩動物として飼いたい等の要望がありました。これは、ヤギを「家畜」だけでなくパートナーとして捉え、ヤギとふれあうことで、心を癒し、笑顔のある穏やかな生活、ロハスな暮らしを望む等、新たな価値観や多様な目的で飼う時代になり、「ヒトの生き方につながるヤギ飼養」へとその役割も変わってきたように思います。

## 6 ふるさと再生ヤギプロジェクト

楽しい要素が島にはたくさんあることを地域の人や町外の人に知ってもらおうとホームページに町の魅力やヤギの話題を発信し、ヤギとみかんを組み合わせた「ふるさと再生ヤギプロジェクト」を立ち上げました。

### 高齢化 耕作放棄地の保全と活用

ヤギの利用+地域の独自(オリジナリティ)なもの 地域の風土が育てた良さを探す

ふるさと再生=地域の歴史・文化・風土を活かしたふるさと自慢づくり  
「独自の気候風土」が育てた人・自然・生活・文化を探求

- (1) 「下蒲刈町をヤギの島に」…ヤギの様子やふるさとの魅力を情報発信
- (2) 「ヤギの利用」…地域の除草ボランティアを行い、地域とつながる
- (3) 「ヤギとみかん園」…ヤギとみかんを組み合わせた有畜複合農業
- (4) 「ヤギの繁殖・譲渡」…ヤギの理解と飼育したい方へ譲渡
- (5) 「メンタルヘルス」…学校・介護施設・老人ホームに貸し出し

島で暮らす人が元気で生活が楽しくなる取り組みを

- (ア) みかん園の活用、海に見える丘へ「ミニヤギとふれあえる牧場」づくり
- (イ) ヤギの除草ボランティアを行い、園地の保全・管理のお手伝い
- (ウ) ミニヤギを繁殖し、譲渡・貸し出し
- (エ) 糞やおしこの厩肥と草木灰を利用したみかん・レモンの低農薬・有機栽培
- (オ) みかん&レモン栽培、ヤギ利用の様子をネット(ホ-ム-ヅ)で発信
- (カ) 郷土の記憶(魅力)を掘り起こして記録し、町の魅力をネットで発信



ふるさとの歴史・文化・自然を守り継ぎ  
未来に生きる子ども達が「人が好き・自然が好き・ふるさが好き」に

## 7 「ふるさと再生ヤギプロジェクト」の取り組み

<p>(1) 地域の人とつながる…荒廃地の除草ボランティア</p> <p>急傾斜で除草に困っている地域の人へヤギの貸し出す。自分達でヤギを車に乗せて畑へ。2度目のヤギレンタルでヤギの除草効果を実感。耕作地を広げたいと意欲的で、ヤギ飼養の理解が広がっています。</p>
<p>(2) 保育・幼稚園児とつながる</p> <p>子ども達がみかん園でヤギと楽しく過ごせる場所として町広報誌に掲載。口コミで広がり、園児が遊びに来る。祖父母や保護者と再度、見学に来られて地域コミュニティの輪が広がっています。</p>
<p>(3) 小学生とつながる (総合的な学習・生活科)</p> <p>生活科や総合的な学習の時間、学校に出向き、授業や牧場でエサやり、だっこの体験。ふれあい方や動物も接し方、家畜の役割を学習。ヤギの愛らしさを肌で感じていました。</p>
<p>(4) 中学生とつながる -ふるさと探訪-総合的学習</p> <p>町で自慢できることを探しに牧場へ。調査したことをまとめ、情報を発信。かつて地域にヤギ、羊、牛がいた事やヤギ牧場の取り組みを知り、「ふるさと自慢をみつけて誇らしい気持ちになった」そうです。</p>
<p>(5) 高校とつながる</p> <p>生徒に心に潤いをもってほしいとヤギのレンタル。18名の生徒さんがヤギの世話係に立候補し、交代でお世話を。他校の教師や生徒の話題から牧場見学に来られたの方も。ヤギの世話を通して責任感や優しさを養い、畜産に興味を持ってくれることを願っています。</p>
<p>(6) ヤギの里親でつながる</p> <p>様々な事情で飼うことが困難になったヤギを引き取っています。その後、休みに牧場へ会いに来てくれました。好きだった餌を与えたり声をかけたり、なでなでしながら、ヤギとの思い出がよみがえり、懐かしい気持ちでいっぱいになったそうです。</p>
<p>(7) 介護施設・老人ホームの方とつながる (セラピーアニマルのヤギ)</p> <p>年々ヤギレンタルが増えています。お年寄り、障がい者、病床の方、デイサービス、リハビリ中の方、施設の職員等、「ヤギがいるとホッと気持ちが和らぐね」「ヤギを見るのが毎日楽しみ」と、みんな笑顔が素敵でした。</p>
<p>(8) 障がいをもつ子とつながる</p> <p>自閉症や発達障がいのある子に、学習面や社会性・コミュニケーションといった能力を伸ばす支援としてヤギを活用した症状緩和や状態に適した支援はできないか視察に来られました。現在、環境を整える準備や支援方法を研究しておられます。</p>
<p>(9) 商店街のイベントでつながる ミニヤギふれあい広場</p> <p>「商店街を活性化しよう」とヤギのふれあいコーナーを設け、集客数を増やしたいと協力依頼が。多くの家族や若者が集まり、記念写真やツイッターなど口コミで広がり、大いにヤギ広場が盛りあがりしました。</p>

(10) 愛媛県のイベントでつながる	(愛媛県 八幡浜市/今治市)
今治市岡村島からフェリーで愛媛県へ。総合広告会社からの依頼で「ヤギのふれあい体験イベント」へ。ヤギとホテルに宿泊。ヤギの譲渡や子どもが自閉症でヤギのレンタルをお願いできないかという相談もありました。	
(11) 呉市長さんにつながる	
島巡りで市長が町へくることになり「島のお宝ミニヤギ登場」。市長さんとヤギのふれあいが実現しました。下蒲刈町＝ヤギの島をアピール。	
(12) ロハスな人たちにつながる	NPO法人 アロマセラピーグループ (広島市)
みかんの花の時期は良い香りに包まれ、香りと花に癒されます。みかんのお花見＋ヤギ見学、みかん狩り＋オーガニック野菜の収穫＋ヤギとふれあいというプランで体験研修に。「ヤギ＋みかん摘み遠足」「ヤギと育てた下蒲刈レモン」など、ヤギと組み合わせた工夫をすれば、地域を盛り上げるアイディアはまだまだあると思います。	
(13) 春休みのヤギ飼育体験でつながる	
春は子ヤギのシーズン。子ども達がヤギを飼ってみたいと両親と牧場に。飼育が無理なら春休みにヤギを飼う体験で許可してもらいました。飼ってみてヤギの愛らしさを実感されたようです。	
(14) 地元の子も達につながる	
牧場を始めて一番に、子ども達が遊びに来てくれました。優しい心で受け入れ、休日はヤギの餌やり、子ヤギの授乳など手伝ってくれます。ミニヤギ牧場が、子ども達が安心できる秘密基地になっています。	
(15) 有機栽培農家の方につながる	(レモン、ブルーベリー、養鶏)
島に橋がかかり、豊島からレモンづくり名人の方と有畜複合農業(ヤギの糞を堆肥にして畑に混ぜて作物を育てる)で意気投合。それがご縁でみかん・レモン栽培の技術指導とヤギ支援をしていただいています。	
(16) 地域おこしとヤギでつながる	(今治市宮窪町地域おこし協力隊)
今治市大島で地域の活性化を考えている若者たち。ヤギを活用した地域おこしで今治市にメスヤギ2頭譲渡。ヤギが「希少家畜」となった今、ヤギが町の特色を引き出す新たなキーワードになると思います。新しい発想と行動力でがんばっています。	
(17) ヤギ&農園の見学でつながる	(リピーター、ヤギファン増加)
ネットや広報紙、新聞などでミニヤギに興味を持たれた方が牧場に。愛らしく親しみやすいヤギを見て帰り際に、「幸せな時間を過ごささせていただきました」とおっしゃる。私もヤギ飼ってよかったなあと思う。	
(18) 企業とエコ除草でつながる	
中国電力よりオフアがあり、変電所のエコ除草を引き受けました。地域の方もヤギの除草の様子を見学に来られて好評でした。さらに、緑地維持管理会社や太陽光発電の除草でレンタルやヤギを利用した事業や問い合わせ、牧場視察がありました。	
(19)「呉市動物愛護のつどい」	(呉市保健所動物愛護センター)
動物愛護センターよりミニヤギとふれあいのイベント依頼。多くの方に犬や猫などの愛護と適正な使用に関心と理解を持っていただけるようヤギも協力参加。ヤギに興味を持たれた参加者の方が牧場の見学に来られました。	
(20)ミニヤギの譲渡でつながる	
県外からもヤギを飼いたい要望があり、遠方より牧場へ子ヤギを見に来いただき、具体的なヤギ飼養の説明をして、譲渡をしました。	

## 8 取り組んできて思ったこと

### (1) 「エコな生き方」から「ロハスな生き方」へ

これまでのエコライフ（環境にいい生き方）という生活意識から、シンプルライフやスローライフを志向する「**ロハス**」な生き方を求める人が増えています。それは、社会のストレスから距離をおき、自然環境の中で自然の幸に恵まれながらゆったりとした生き方（スローライフ）を持ちたいと考える人たちのことです。また、You are what you eat.(あなたが食べるものがあなたの体をつくる)というオーガニックな考え(化学農薬や化学肥料を使わず、水、土、大気を汚染から守る)を持った人も増えてきました。こうした「環境に配慮しながらも自分のライフスタイルを好む年配の方や若者たちの支持を受けて、今、ヤギの注目度は高まっています。

### (2) ヤギのレンタル・譲渡を受けて

最近、インターネットの普及によりヤギを買いたい、レンタルしたいなどの問い合わせがあります。ヤギが見直され、興味・関心を持たれる方が増えてきたということです。また、犬といっしょにヤギを飼いたいという相談もあります。私は、犬や猫、ヤギが人と親しく暮らせるのは、お互いの気持ちが理解できるからだと考えています。

犬や猫、ヤギは言葉を持っていませんが、表情や姿勢、しぐさ(ボディ・ランゲージ)による視覚コミュニケーションには、人も犬もヤギも共通部分があるからです。犬やヤギと人間がいっしょに暮らすには、コミュニケーションが大切になると考えます。

### (3) ヤギを飼う前に

ヤギを飼育するには、人とヤギの良好な関係づくりが必要となります。譲渡する際は、ヤギの習性(行動)や生理、飼い方を説明し、以下のようなことを確認した上で、誓約書を書いて頂き、譲渡するようにしています。

「飼育上のトラブル」がないように

- ①ヤギと、どんな風にくらしたいか(使用目的)
- ②家族全員がヤギを飼うことに賛成し、協力体制がとれる環境が整っているか
- ③一戸建てか集合住宅(ペット飼育の許可の有無)か、飼う場所、餌の確保できるか
- ④飼育する環境(騒音・悪臭問題)はだいじょうぶか
- ⑤一人暮らし、高齢者かどうか(家族の協力の有無、性格の穏やかなヤギを紹介)
- ⑥ヤギの行動を理解し、適正な飼い方、健康管理も含めて気配りができるか
- ⑦覚悟と責任をもって、最後まで飼う「意欲」はあるか (終生飼養の原則)

### (4) アニマルウェルフェア(動物福祉)の周知 5つの自由

- 十分なエサと水があること(飢えと渇きからの自由)
- 快適な飼育環境であること(不快からの自由)
- けがや病気は治療されること(傷害・病気からの自由)
- 恐怖や苦痛にさらされないこと(恐怖・苦痛からの自由)
- 正常な行動ができる広さ・刺激があり、仲間がいること(正常行動への自由)

### ① 適正飼養…健康管理と衛生対策

例えば、ヤギはあまり水をほしがらないと思い、常時水を置いていない。水入れがあっても不潔。ヤギが排泄物の上に寝ていて体が著しく汚れている、エサを適切な回数与えない等がないよう、いつもヤギの健康管理と飼育環境の維持に努める。

### ② ヤギの生理に応じた出産・譲渡

出産後、十分な期間を経ずにすぐに繁殖させる。(オスは4～6ヶ月令 メスでは5～8ヶ月令)。また、早期に子ヤギの譲渡する(子ヤギの胃袋の発達には2ヶ月必要)で

ヤギを飼うということは、その所有者が当然負うべき適正な飼育義務及び責任が生じます。生命をあずかる自覚と責任を持って飼うことが大切だと考えます。

### ③ ヤギのレンタル・譲渡の衛生管理

ヤギは「家畜」ですが、「ペット」や「コンパニオンアニマル」として飼いたいという要望があります。ヤギレンタルでは、「口蹄疫の防疫対策」や手指の「消毒」ヤギとふれあった後の手洗いが必要です。またヤギは、いたずら好きのやんちゃな面があります。レンタルするヤギは、人に精神的及び肉体的害を与えないよう攻撃性がなく、人に対して従順で情緒が安定し”人に触られても嫌がらない友好的なヤギ”を選んで貸し出しや譲渡をします。そのために、ヤギの気質にもよりますが、小さいうちからヒトに触られることに慣らすことが大切だと思います。

### 終わりに

近年、都市化の進展や核家族化、少子高齢化などを背景にして、日常生活におけるヤギの役割も変化し、その重要性は高まり、「産業動物(家畜)」「愛玩動物(パートナー)」として、ヤギは心と時間と空間のすき間を埋めてくれる存在になってきています。

心 → やすらぎや優しさをもたらしてくれるヤギ  
時間 → 話し相手や遊び相手になってくれるヤギ  
空間 → 日々の生活にほのぼのとした温かさを醸し出してくれるヤギ

「ふるさと再生ヤギプロジェクト」を始めてから、ヤギを通して様々な人との出会いや新しい人とのつながりがありました。ふれあいイベント、レンタルや譲渡を通して、県内外の多くの方の素敵な笑顔をたくさん見てきました。何より私自身の心が癒されました。

「ふるさと再生ヤギプロジェクト」は、『**温故知新**』”故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを**知**れば**未来**のかてとなる”という発想です。**かつて**多くヤギが飼われていました。**今**やヤギは、「まぼろしの家畜」になっています。新しい時代を見据え、**新**たな視点にたってヤギの役割を更新し、新たなる活用に**チャレンジ**してみることを切に期待しています。

最後に、私の好きな格言に、「**巧詐**は **拙誠**に**如**かず」(韓非子)があります。これからも、つたない取り組みですが、ヤギの生態、習性(行動)、生理に関する知識の習得に努め、誠実に、肩の力をぬいてヤギと生きていこうと思います。ヤギと過ごす穏やかな時間、何気ない日常生活の中に小さな喜びを見つけ、スローライフ(ゆっくり人生)でいきたいと考えています。